

題材「なぜ掃除をするのか」（第1時）

1 本時の学習計画 1 時間中の第1時

(1) 学習のねらい

掃除は必要だと感じながらも、掃除にあまり積極的でない子どもたちが、海外の学校では子どもたちが自分で掃除をしないということを知り、そのために机の落書きやトイレの汚れが多いという事実（写真）に出会い、自分たちが使っているものと比較することを通して、掃除の必要性を再確認し、さらに自分たちの現状も見つめることで、掃除について思い直すことができる。

(2) 本時の学習材

海外の学校の机の落書きやトイレの汚れの写真

- 本時では学習問題として、「掃除はするべきか、しなくてもいいのか」について考える。各々が、自分の考えを持っているが、多くは「するべき」に偏るだろう。議論が深まったところで、学習材を提示。さらに、掃除の必要性について子どもたちに問い直す。
- 自分たちで掃除をする必要がない海外の学校の子どもたちの実態を伝えることで、子どもたちはその姿に驚くだろう。感想をきいたうえで、授業者が「日本でも掃除なしにすればいいんじゃない？」と提案することで、子どもたちは掃除はするべきだと反論することが予想できる。その姿を捉えたところで、授業者が見た子どもたちの実態を伝える。そうすることで、子どもたちが今の自分たちの掃除について思い直すことが期待できる。

(3) 学習の展開

過程	学 習 活 動	予想される子どもの動き	時間	指 導 と 評 価
課題把握	1 掃除の必要性について考える。	学習問題 学校の掃除はするべき？しなくてもいい？ ・するべきだよ！だって… ・しなくてもいいんじゃない？ ・やらないきゃ汚くなっちゃうよ。 ・（なんとなく）やらないきゃ…。	10'	・スライドショーを用いて、授業を進める。 ・状況によっては、議論が深まるように促す。 学習材 海外の学校の机の落書きやトイレの汚れの写真
展開	2 改めて掃除の必要性について考える。	学習課題 日本の学校では、本当に掃除は必要なのか。 ・汚いなあ。 ・やっぱり掃除って必要だよ。 ・衛生面でも掃除は大事だよ。 ・なんでこんなに汚くなるんだろう。	25'	○ 「日本でも掃除なしにすればいいんじゃない？」（高木 T と協力して） ・自分たちが使っている机やトイレとの比較を促す。 ・「清掃員を雇えばいい」という意見には注意したい。
終末	3 振り返り（客観的な自分たちの姿を見つめて。掃除とどう向き合う？）	・自分はできてなかったかも…、これからは頑張りたいな。 ・やっぱり掃除って大切、みんな協力してできるといいな。	10'	評価 掃除について思い直すことができたかどうか、振り返りから評価。